

日本の機窓から(5)、北関東の山々

＜須藤 茂¹⁾＞

写真の説明の後のカッコ内に、路線名と撮影月を付けました。



図1 位置図.

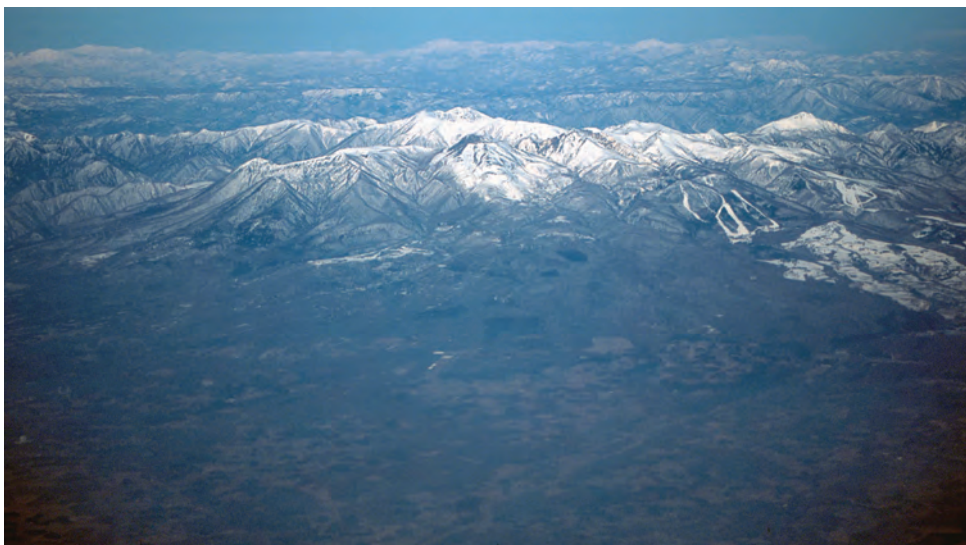


写真1 東方から見た那須火山。(福島-伊丹, 2月)

中央上の山頂部に雪がないのが、今でも噴気活動が活発な茶臼岳です。右に朝日岳，最高峰三本槍岳 (1,916.9m)，旭岳など，左に南月山，白笹山と南北に火山が連なっています。すぐ後に見える基盤岩の山もこれらの火山と同じ位高いです。

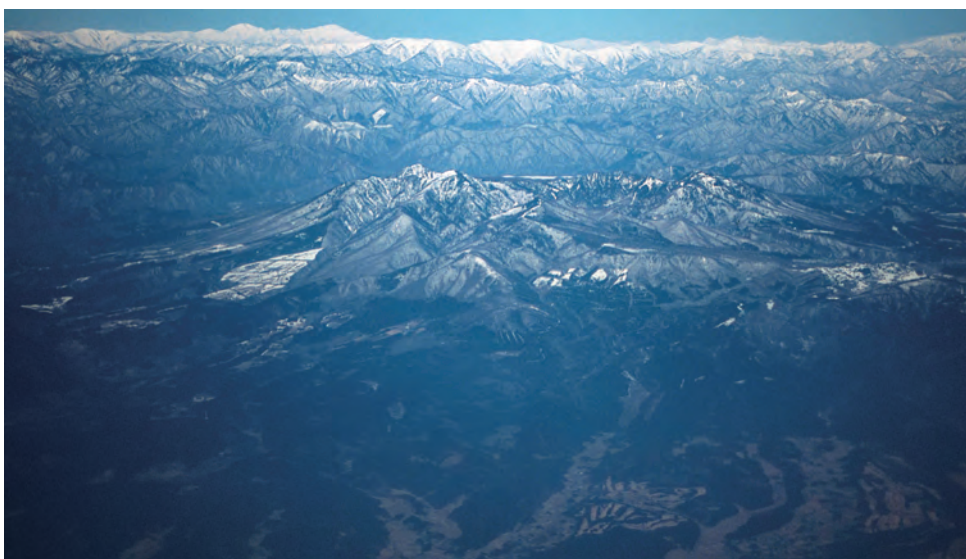


写真2 南東方から見た高原火山。(福島-伊丹, 2月)

最高峰積ヶ岳 (中央やや左上, 1,794.9m) の周囲はかなり開析されていますが、北斜面の富士山 (中央右端) では新しい活動記録もある活火山です。手前の平野部との境界は活断層で区切られています。スカイラインは奥会津の山々です。

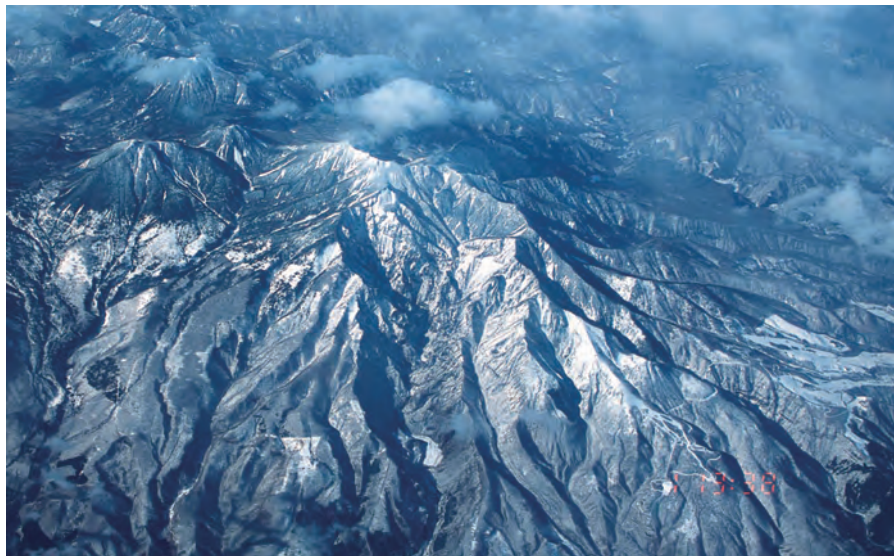


写真3 南東方から見た女峰・赤薙火山。(福島-福岡, 2月)

写真中央の沢が氷瀑で有名な雲竜溪谷で、その源頭の左が女峰山(2,483m)、右が赤薙山(2,010.3m)で、成層火山体の削れ残りです。その左には手前から大真名子(2,375.4m)、小真名子(2,322.9m)、太郎(2,367.5m)の各火山が連なっています。

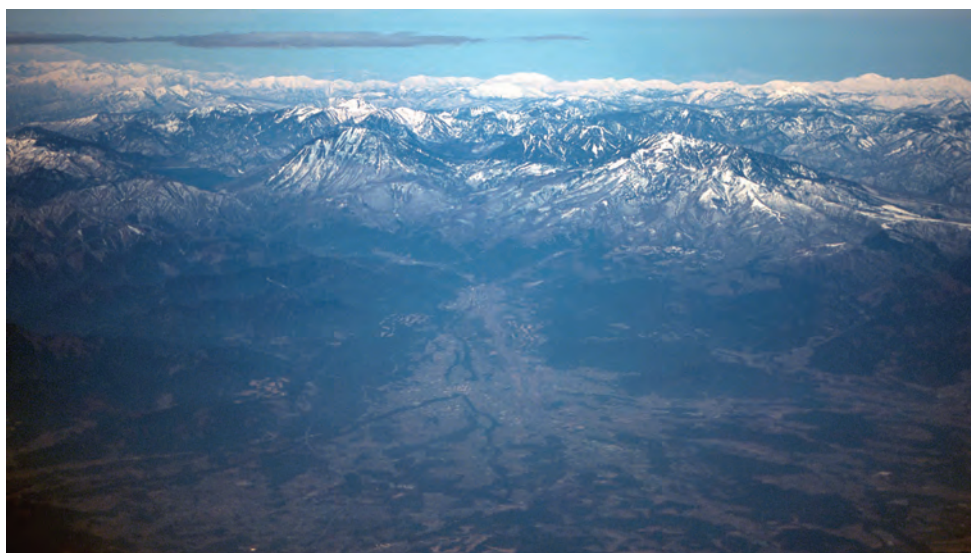


写真4 南東方から見た日光火山群。(福島-伊丹, 2月)

右、女峰・赤薙火山、その左、小真名子、太郎、大真名子、男体山、その上が活火山白根山(2,577.6m)、男体山の左、中禅寺湖。手前が大谷川の扇状地で、杉並木も見えます。

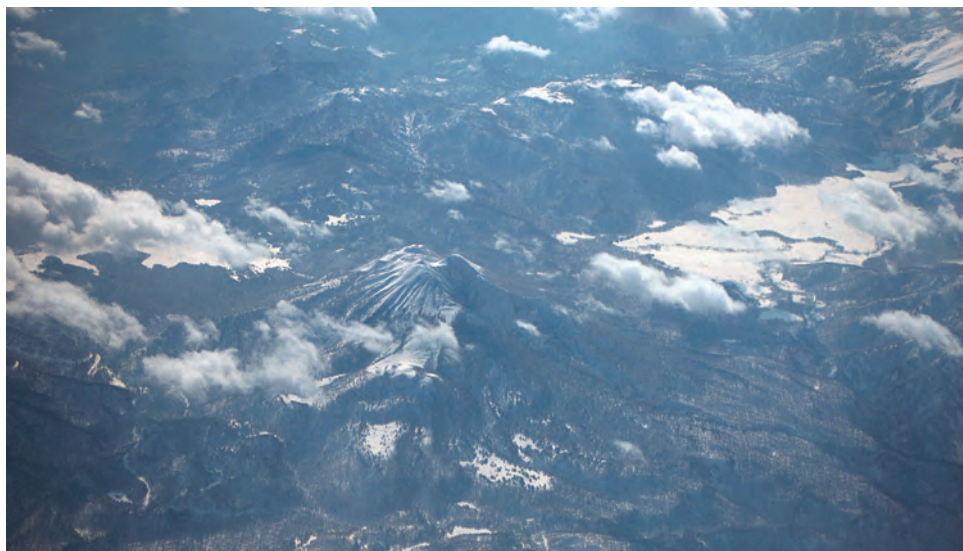


写真5 北方から見た燧ヶ岳と尾瀬ヶ原。(富山-羽田, 1月)

中央が燧ヶ岳(2,356m)で、その右の雪原が尾瀬ヶ原、左が尾瀬沼です。火山活動などによる湖の生成から湿原、乾燥草原、森林への変化が自然の流れですが、それを途中で人間の手によって阻もうという意見もあります。

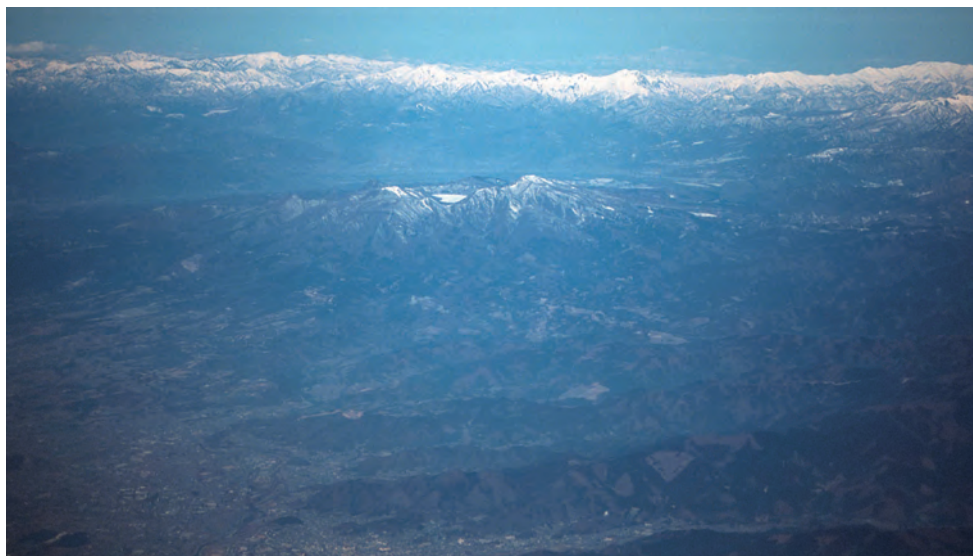


写真6 南東方から見た赤城山. (福島-伊丹, 2月)
北関東最大級の複合成層火山です. 最高峰黒檜岳(1,827.6m)をはじめとした山々が大沼(おの, 中央の白い部分)を取り囲むように分布しています. 園芸用として有名な鹿沼土(軽石)を供給するなど爆発的な活動の歴史があります.



写真7 南東方から見た榛名山. (福島-福岡, 2月)
中央に結氷した榛名湖と榛名富士(1,390.7m)が見えます. それを取り囲むように開析された成層火山体の削れ残りや新しい溶岩円頂丘が並んでいます. 榛名富士の右に見える二ッ岳は, 6世紀に活動し, 当時の住民に大きな被害をもたらしました.

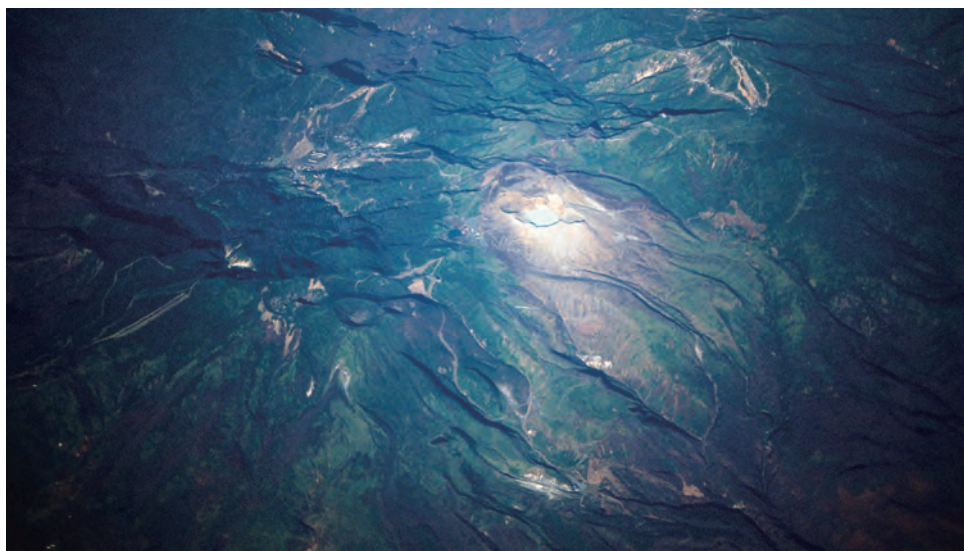


写真8 南方から見た草津白根山. (伊丹-仙台, 11月)
中央右上の裸地の中にある火口湖, 湯釜, その左下の本白根山の鏡池など, 山頂部は穴だらけです. 地熱活動により裸地ができているほか, 人間の活動によっても緑が削られています.



以下はおまけです。定期便のほか、遊覧飛行という手もあります。低空から地形をよく見ることができますが、飛行コースは決められています。季節により観光地などで営業しています。そのほかに貸切飛行もありますが、別の機会に。

写真9 草津白根火山山頂部 (9月)

写真8の中央部を北から見ています。手前が頻繁に水蒸気爆発を起こす湯釜、向こうが本白根山で、その間には大勢の観光客が見えます。

写真10 日光華嚴の滝下流左岸の溶岩 (11月)
左が華嚴の滝、右の上と下に展望台があります。その間には、柱状節理が発達した溶岩が露出しています。中禅寺湖をせき止めて作った原因のひとつです。崩落による事故を防ぐため、上の観瀑台の近くに掘った縦穴から鋼線で岩石を内側に引っ張っています。

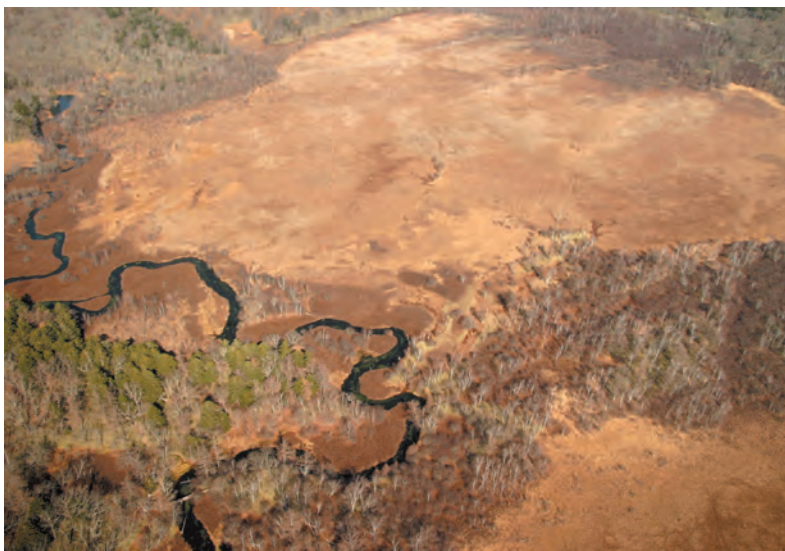


写真11 日光戦場ヶ原北部 (11月)

男体山などの火山活動でせき止められてできた凹地に、1万5千年位前にさらに火砕流が流れ込んで平地ができました。そこに湯川が蛇行して流れ、その周囲は湿原で、さらにその外側は乾燥した草原、そこに針葉樹と広葉樹が進出して、さあこれからどうなるのでしょうか。

地質情報研究部門の中野俊さんには原稿をチェックしていただきました。末尾に記して深謝の意を表します。